

地域意見交換会の概要

村山総合支庁
最上総合支庁
置賜総合支庁
庄内総合支庁

地域意見交換会の概要（村山総合支庁）

- 1 開催日時 令和6年11月12日（火） 14時00分～16時05分
- 2 開催場所 村山総合支庁2階 講堂
- 3 参加機関・団体（計21機関・団体）
管内13市町、管内3農業協同組合、3農業関係団体、2県関係機関

4 主な意見等

- ① 第4次農林水産業元気創造戦略の進捗状況について 特になし

② 次期農林水産業元気創造戦略の方向性について

《1 人材育成・確保》

- 朝日町が取り組む樹園地のマッチングシステムは、人材確保の先導的な取り組みであり、県内で横展開を図ってはどうか。
- 新規就農者にだけでなく、親元就農に対しても経営開始資金の支給を希望する。
- 機械購入の補助はなかなか採択されない。農業を始めよう、続けようという人の意欲が削がれるのではと懸念される。要件の緩和及び十分な予算の確保を希望する。
- 無料職業紹介所のマッチング数の実績は年々低調となっている一方で、「daywork」の実績は、利用登録者数・求人者数・求職者数・マッチング数が年々拡大している。そのため、人材育成・確保の目標指標に「daywork」のマッチング数を入れてはどうか。

《2 担い手・経営体育成》

- 労働力不足の解決のためには、スマート農業への支援も推進していくべきである。
- スマート農業の推進にあたり、一般的な（確立された）技術の普及よりも、チャレンジしようとする農家を町と県が一緒になって支援するような取り組みを望む。
- 農家が手放した農地を、次の人へ良い状態で引継ぐための支援が必要。
- 収入保険等、保険料の掛金に対する補助制度を、県・市町村ともに取り入れて欲しい。併せて、保険をPRする場の増加を希望する。

《3 基盤強化・強靱化》

- 今の鳥獣被害対策は、捕獲や農地を守るための対策が主であり、捕獲した後の処分（解体など）の対策が弱いと思える。有料でも良いので、解体場所があると良い。
- 農業者の減少に伴い、土地改良区の管理体制も脆弱化している。将来、水利施設の維持管理を続けていけるか心配。県においても、土地改良区の体制強化への新たな支援をお願いしたい。

《4 地域活性化》

- 担い手の流出や水張り要件等により、中間産地の農業（そばを作付）が苦境に陥っている。

《5 環境保全型農業》

- 特別栽培や有機栽培に関する技術の開発は必要であるが、まずは耕作面積の維持が優先になるのではないか。また、取り組むにあたっては認証等に係る支援も重要になるのではないか。

《7 果樹》

- 地域計画策定の話し合いにおいて、稲作は比較的大規模化・集約化が容易だが、果樹は進まない。
- 果樹関係へのスマート・省力化を進めていただきたい。
- 果樹や野菜等に関して、高温に対応した栽培技術の確立と、高温に対応した品種の選定や開発が重要。（8 野菜・花卉に共通）

《9 畜産》

- 畜産農家の経営の厳しさや担い手の減少は、物価高に合わせて農産物を値上げしなければ改善はないと考える。値上げしても消費が落ちないように理解醸成のPRを強く望む。

《11 流通販売・輸出促進》

- 輸出促進に関しては、どのような顧客をターゲットにして輸出するのかを確認し進めていったらどうか。

5 その他 特になし

地域意見交換会の概要（最上総合支庁）

- 1 開催日時 令和6年11月7日（木） 13時30分～15時10分
- 2 開催場所 新庄市民文化会館「小ホール」
- 3 参加機関・団体 計11団体（管内の市町村、農業協同組合、森林組合）
- 4 主な意見等

◎次期農林水産業元気創造戦略の方向性（案）について

【基本戦略1】意欲ある多様な担い手の育成・確保《人づくり》 関連

① 営農継続に向けた支援

- 生産者に末永く現役を続けてもらえるよう、営農継続を支える施策が重要。高齢でも元気に営農している生産者も多く、大事にしないといけない。
- 農業機械の更新が困難との声が非常に多い。多くの補助金は高収益作物への取組みや規模拡大など要件が厳しく、現状を維持するための更新のニーズに応えるのが難しいため、制度の改善を望む。
- 現状、高齢者を新たに認定農業者に位置付けることは難しいが、しっかりした指導者が付いていることを確認できれば認定可能とするなどの方策があるといい。
- 高齢者の力を活かす方策が必要。体力が低下しても意欲の高い高齢者向けに、作業負担が軽い「ししとう」の作付けを推進したいと考えている。また、ニラの生産を辞めた方には、別の生産者のニラ収穫後の調整作業に従事してもらえるよう、委託の仕組みづくりを進めたい。

② 新規就農者の確保

- 担い手不足が深刻。高齢化が進み、生産停止の危機に直面しているアスパラガス等の優良農地も多く、経営継承に向けた取組みの強化が必要。
- 新規就農者には、総合的なサポートで定着率を高めることが必要。市町村の新規就農者受入組織の創設に向け、関係機関の連携・協力をお願いしたい。
- 新規就農者育成総合対策事業（資金面の支援）は非常に有効であり、積極的に活用したい。
- 東北農林専門職大学への期待は大きい。大学と連携した取組みの強化を。

③ スマート農業へのさらなる取組

- GNSS（全地球航法衛星測位システム）のアンテナが地域に設置される計画もあり、大きく進展していくと思われる。一層の推進が必要。
- 若手農業者への支援として、LINEを活用している。防除作業時期のお知らせやJAからの連絡などに活用している。若手農業者からの需要がある。

【基本戦略2】活気あるしなやかな農村の創造《農村づくり》 関連

① 基盤整備事業の必要性

- 基盤整備が進めば面的集約、担い手への集積も進む。そういう地区では地域計画の策定も進んできている。
- 過去に基盤整備が終わった個所の再整備化も必要となってきた。
- 個々の経営では限界があるということは皆さん理解しているが、効率的な経営を目指すための集落での合意形成がなかなか進まない。

② 激甚化・頻発化する自然災害への対応

- 令和6年7月25日からの大雨で被災した農地について、原形復旧だけでは厳しい。再度被災する可能性もあり、農地を守るには同時に防止策も必要。
- 被災農地に基盤整備を施す、田を畑地化するなど、原形復旧だけでない支援が必要。

③ 中山間地域への対応

- 中山間地域など条件が不利な地域での営農は極めて厳しい現状にある。「中山間地域等直接支払交付金」等の事業を活用し、対策に一層力を入れてほしい。

④ 鳥獣被害防止対策への取組

- 鳥獣被害防止対策を講じて効果があったのか、モニタリングをしっかりとしていく必要がある。
- 西川町の鳥獣被害対策室設置のニュースが話題になるなど、最上管内でも関心が高い。専門人材の育成に努める必要がある。
- 市町村単独の補助事業だけでは賄いきれない。一層の支援をお願いしたい。

【基本戦略3】魅力ある稼げる農林水産業の追求《魅力づくり》 関連

① 土地利用型農業へのさらなる取組

- 「水田活用産地づくり交付金」にかかる「5年水張問題」では、ブロックローテーションにも取組む必要があるが、条件が悪くできない圃場がある。水利の不便性や小集団化など、条件が悪くブロックローテーションができないところには何らかの支援が必要。
- 基盤整備されている良好な圃場でも、次の借り受け者がいなければ高収益作物に取り組むことができない。条件が悪い圃場でも、土地を借り受けた場合に受けられる支援がほしい。
- 高温耐性品種の開発が進んでいると思う。生産者のためにも、県からは積

極的な情報提供をお願いしたい。

- 「つや姫」は高単価で市場評価も高いことに対して数量が少ない。「はえぬき」から「つや姫」「雪若丸」へさらにシフトを図る必要がある。

② 畜産振興へのさらなる取組

- 畜産業では、個人の酪農や肥育の農家は経営状況が厳しい。法人経営で大規模化した経営体は比較的安定しており、法人化の推進は必要。
- 経営継承への支援も重要。

【基本戦略4】「やまがた森林ノミクス」の加速《森林づくり》 関連

① 担い手不足

- 林業分野も担い手不足が深刻。東北農林専門職大学には期待している。林業分野への就業を継続してもらえるよう、将来の姿を示すことが必要。
- Iターンで最上地域に就業した場合、住居の問題がある。学生だけでなく社会人の住居確保の支援をお願いしたい。
- 菌茸生産者の経営継承への支援が必要。

② 林業振興に向けたさらなる取組

- 木造住宅の着工が減少している。木造住宅着工増に向けた施策を期待。
- 大雨災害では菌茸舎も大きな被害を受けており、生産量が下降している。

【基本戦略5】水産業の成長産業化《海川づくり》 関連

① 内水面漁業振興へのさらなる取組

- 「ニジサクラ」について、養殖に取り組んでいる地元では人気があるものの、知名度不足は否めない。認知度向上に向けた取組みに加え、生産量を増やしていくことが必要。

地域意見交換会の概要（置賜総合支庁）

1 開催日時 令和6年10月29日（火） 14時 ～ 15時50分

2 開催場所 置賜総合支庁2階 講堂

3 参加機関・団体（計23機関・団体）

管内7市町、JA山形おきたま、森林組合3、県関係機関12

4 主な意見等（次期農林水産業元気創造戦略の方向性（案）に対する意見、要望）

※〔〕内の記載は、戦略を細分化した小分野（19分野）。

〔人材育成・確保〕

- これまでの県の施策により、令和6年度の本県の新規就農者数が東北1位であった。今後も更なる人材確保に力をいれていただきたい。

〔基盤強化・強靱化〕

- 中山間地域における耕作放棄地の増加が問題となっているため、次期戦略を策定する中で検討して欲しい。

〔環境保全型農業〕

- 有機農業など環境保全型農業の栽培技術取得に向け、県に支援を願いたい。

〔土地利用型作物〕

- 水稻では、近年の高温による品質低下を受け、「雪若丸」の作付を増加する傾向であるが、「はえぬき」に比べ単価が割高になるため、順調に売れるかが疑問。再度、「つや姫」も含め主要3品種（「雪若丸」「はえぬき」）ごとの販売ターゲットの絞り込みが必要。
- 水田活用の直接支払交付金の交付対象水田の5年水張りルールは、令和9年度以降も継続するため、ルールへの対応に向けた各種支援について検討いただきたい。
- 高温の影響による米の品質低下が顕著である。地球温暖化に対応した栽培技術の見直しが必要。

〔流通販売・輸出促進〕

- 本県農産物等の輸出額が年々増加しており、県産農産物等の販路拡大として海外への輸出促進は重要である。しかし、市町村レベルで取り組む項目としてはハードルが高いため、輸出事業者の活用など県が主体となった輸出推進に取り組んで欲しい。
- 山形県民は控えめな性格なために情報発信・PRが不得手であることから、更なる情報発信の取組みが必要。
- 【再掲】水稻では、近年の高温による品質低下を受け、「雪若丸」の作付を

増加する傾向であるが、「はえぬき」に比べ単価が割高になるため、順調に売れるかが疑問。再度、「雪若丸」も含め品種ごとの販売ターゲットの絞り込みが必要。

〔人材育成・地域づくり〕

- 当組合に新たな人材が加入するなど明るい兆しが見える一方、まだまだ専門人材が不足している現状。県では更なる人材育成に力を入れて欲しい。
- 国産木材の需要はあるものの、木材生産のための人材が不足している。
また、再造林率向上に向けた取組みである「下刈り」などの森林管理においてマンパワーが明らかに足りない。県では更なる人材確保に力を入れて欲しい。

〔県産木材の安定供給・森林の多面的機能の発揮〕

- 再造林率向上を阻害している要因にクマ剥ぎの被害が挙げられる。対策が必要。

5 その他 ※○は19分野に区分できなかった意見、●は戦略以外での提案・要望等

- 資材高騰対策が必要。
- 若手生産者を主な対象として、ITを活用した情報提供の効率化を図ることが必要。
- 新規就農者の支援には、国の支援事業の活用が重要。是非、国に対して予算確保に向けて働きかけて欲しい。
- 離農により手放される農地等の継承促進として、(離農による)中古農機を取得するための支援が考えられる。
- 米価が高騰していることから、生産現場において「園芸振興」が二の次となっている。
- 鳥獣被害防止及びJクレジット制度への取組みとして、今後、森林整備(管理)を推進する。
- 花粉対策として、従来の杉を伐採し、花粉の少ない杉を再移植している。
この伐採された杉を中国に輸出しているが、これを国内販売に向けるようになれば、消費者の木材購入費が安くなるのではないか。
- 山形県農林水産業振興計画と農林水産業元気創造戦略の関連性・位置付けがわかりづらい。

地域意見交換会の概要（庄内総合支庁）

1 開催日時

令和6年11月1日（金） 14時～16時

2 開催場所

庄内総合支庁農業技術普及課研修室

3 参加機関・団体

管内5市町・5農協、その他関係団体、計13機関・団体

4 主な意見等

【次期農林水産業元気創造戦略の方向性（案）について】

《1 人材育成・確保》

- 新規就農者確保の取組みには、これからも手厚い支援をお願いしたい。県と市町で一層強力に新規就農者確保について支援していけるよう、次期計画にしっかり位置付けてほしい。
- 特に施設等の財産を持つ園芸分野で第三者継承を推進するには、人と人のマッチングが必要であり、そのようなところで支援をお願いしたい。
- 人材育成・確保に引き続き手厚い支援を、特に（自営就農の）新規参入者の成功事例が少ないので支援をお願いしたい。
- 新規就農者が規模拡大により法人化している。雇用就農を推進するために、社会保険料の支援などをいずれお願いしたい。
- 新規就農者で若い方が入ってくると、水田の集積（大規模化）が始まり、親元でやっていた野菜・花きの経営が規模縮小となる問題が発生している。こちらの技術的・経営的な支援をお願いしたい。
- 新規就農者で全く経験のない方は定着しにくく、技術指導・経営指導を持て余している。育てるところでは大変厳しい状況。自分たちも手伝うが、できれば行政の力で何とかしてほしい。

《2 担い手・経営体育成》

- 大農家一辺倒ではなく、これまで県の農業を担ってきた家族経営の農業者を、もっと支援する取組みをお願いしたい。
- 農家も大規模化に向かっている一方で、小さいけれども良いものを作っている人もたくさんいる。そういった方たちへの支援も手厚くしてほしい。

《3 基盤強化・強靱化》

- 田んぼダムの取組み拡大について、防災減災対策として非常に有効。普及拡大を一緒になって推進していきたい。
- 台風や大雨の被害が毎年のように出ている。被害をできるだけ発生させないよ

うな基盤強化を施策の中に盛り込んでほしい。

- 鳥獣害対策について、気候変動に伴ってイノシシが生息域を拡大しているような状況があれば、今後の対策をしっかりとってほしい。

《4 地域活性化》

- 農村RMOの活動資金について継続事業で支援される場合、年度末年度始めで活動資金が途切れ、資金繰りの話が現実問題として出てくる。実務的な部分になるがこの辺の手立てを考えて欲しい。
- 中山間地域で特にそばのほ場が多いが、水田活用の直接支払交付金が今後もらえなくなる可能性が高い。ほ場の維持管理の観点からも、そばが継続して作られるような方策が必要。

《5 環境保全型農業》

- 庄内の気象や土壌に合った主力品目について、有機栽培のマニュアル化の推進をお願いしたい。
- GAPの認証取得するメリット、成功例をより目立つようなPRをしないと、実際なかなか広がらない。

《6 土地利用型作物》

- 農業産出額の大半を占める米について、高温耐性品種の作付拡大をぜひお願いしたい。

《7 果樹》

- 樹園地の集積や継承で、技術習得から農地取得、就農までの仕組みの構築について、マッチングシステム的なものなど、県下共通の良い仕組みができればありがたい。

《9 畜産》

- 小規模な畜産農家が衰退、離農していく状況にあり、小規模畜産農家を盛り上げる施策展開を、次期戦略に位置付けて推進してほしい。

《11 流通販売・輸出促進》

- 国外への輸出による農家所得の向上という観点から、主食用のつや姫の輸出枠を創設してほしい。国内マーケットとは別の枠が設定されれば、輸出に取り組む農業法人がもっと頑張れると感じている。
- 適正な農産物の販売価格の流通対策を推進してほしい。

《13 県産木材の安定供給・森林の多面的機能の発揮》

- 松くい虫に関して甚大な被害が発生し、伐倒駆除が追い付かず切り残しの松が

ある。二次被害の危険のある切り残した松の伐倒に対し、何らかの支援をお願いしたい。

- 7月の大雨で中山間地域、林道に被害を受けたが、人手不足もあり、被害確認の体制が脆弱だった。ドローンの活用など復旧に向けた支援や体制づくりの支援がやはり必要。

《16 海面漁業》

- 漁獲枠・漁獲量が減少（特にイカ、サケ、タラ、ハタハタが獲れない）と、燃油・資材高騰もかなり漁業者には響いており、そういった部分も加味しながらの経営体育成が必要。
- 現状と課題の中に「中型イカ釣り漁船、底びき網漁船等の大規模経営体が廃業し」と記載があるが、定置網漁船の廃業も盛り込んでほしい。

《18 県産水産物の利用拡大》

- 内水面でやっているニジサクラの養殖を増やしていただくような、そういった施策が必要。遊佐町にはポテンシャルの高い水があり、養殖場所を選定する際に考慮して欲しい。

《19 水環境の確保・活用》

- 洋上風力発電にかかる漁業協調策・振興策の取組みについて、県の伴走支援をぜひお願いしたい。先進事例の紹介や、専門家を招聘し、漁業者と一緒に将来のことを考えるような機会を作って推進してほしい。
- 洋上風力発電では、酒田港が基地港湾になってから酒田部会も法定協議会も開催されていない。遊佐の進捗に離されることなく順当に進めてほしい。

以上